都市型ヤード整備、品質問題にも力

タニヒラ創業40周年

千葉県の有力金属スクラップディーラー、タニヒラ（本社＝千葉県市川市、谷平竜幸社長）は、今年創業40周年を迎えた。湾岸近くの市川市本行徳に本社工場・第二工場の2つの都市型ヤードを構え、鉄を中心とした金属スクラップの回収・加工業務を行っている。また、谷平社長は2012年から日本鉄リサイクル工業会関東支部千葉部会の部会長も務め、部会活動にも精力的だ。創業40周年の節目に、谷平社長に話を聞いた。

谷平 竜幸社長に聞く

「父に負けまい」と努力

――会社の歴史を。

「実は、私の祖父も金属業に携わっていた。祖父は戦前に軍需設備の製造業を起こし、真鍮をはじめとする各種金属を取り扱っていたと聞く。その際すでに、いわゆる端材と呼ばれるようなものの商売をしていたようだ。その後、父が1979年に東京都江戸川区で本格的に鉄スクラップに特化した取り扱いをはじめ、ここから当社のスクラップディーラーとしての歴史がはじまることになる。当時はまだギロチンなどの設備もなく、台貫設備とクレーンだけの200坪程度の工場だった。その後月間取扱量が1000㌧を超えるようになり、回収業務だけではなく加工処理も行うべく、本社の移転を決断。89年に千葉県市川市の地に本社工場を構え、08年には隣接地に第二工場を設立した。現在、本社工場にはモリタ製の600㌧ギロチンシャーや京和工業製の4・5㌧天井クレーンなどを、第二工場にはテヅカ製の1000㌧ギロチンシャーなどを導入している。現在の取扱量は全社で月間5000㌧ほどだ」

――創業40周年を迎えて。

「私が当社に入社したのは25歳で、それからちょうど25年間勤めている。社長に就任したのは03年の時だった。印象的だったのは、私の社長就任の折、先代の社長である父が当時勤めていた従業員の方々にお願いして、全員退職していただいたこと。もちろん当時の私は新たに従業員を雇わねばならず、非常に大変な思いをした。しかしあれは父なりの教育で、社長となるにあたり、否が応にも私に責任感をもたせるためにあえてやったことだった。〝父には負けたくない！〟とがむしゃらで優秀な従業員にも恵まれ、こうして40周年を迎えることが出来た。今となっては父に感謝している」

――12年に部会長に就任した鉄リ工関東支部・千葉部会の活動にも積極的だ。

「千葉部会全体を盛り上げるべく、部会の新年会に合わせて16年から毎年講師を招いて講演会を開いている。会員の皆様にも楽しんでいただけているようだ。また、私は一貫して千葉のみならず他地区の同業他社同士の関係性をより深めていきたいと思ってきた。たとえば工業会のなかでは、部会長同士が顔を合わせる機会はあるのだが、会員同士となるとなかなかないのが実情だった。しかし17年、城東部会の伊藤貴司部会長（伊藤信司商店社長）の発案もあって、城東部会、千葉部会、そして関東鉄源協同組合京葉会の3団体の合同納涼例会をはじめて開催した。翌18年には鉄リ工・関東支部の4部会と関東鉄源協同組合の2会との合同で盛大に開催することが出来た。各人が地区の垣根を越えて交流し、人脈を広げ、多くの情報交換ができた有意義な試みだったと思う。今後も続けていきたい」

鉄リ千葉部会長としても活動

地区の垣根越えて交流

――商社との関係は。

「当社で取り扱う鉄スクラップは、国内メーカーだけでなく輸出向けにも出荷している。極端なことを言えばわれわれディーラーも他国との直接取引をやろうと思えばできる環境にあるが、授受する金銭の保証や、ひとつの取引を終えるまでの安心感を考えると、仲介してくれる商社の存在は大きく、ディーラーの経営者として非常に感謝している。一方で、一部の商社が解体業者の方々と直接鉄スクラップの取引をはじめていると聞く。しかしわれわれディーラーが地道に営業して開拓してきた解体業者との関係や市場があり、そのあたりのことはよくよく検討してほしい、というのが本音だ」

――足元の鉄スクラップ相場は下落している。

「われわれディーラーの立場でいえば、トン当たり2万円台で安定しているというのが安定操業できる環境。18年5―11月のように同3万円台後半の高価格帯で推移していると、在庫リスクもその分大きくなる。そうした意味では、現在の相場（H2の関東地区メーカー炉前購入価格トン2万4500―2万6000円、9日時点）は鉄スクラップの適正価格、といえるかもしれない」

――鉄スクラップの品質低下問題が紛糾している。

「日本にとって主な輸出先だった韓国が徐々に鉄スクラップ輸出国になろうとしており、日本からの輸出先は遠方化し、船も大型化している。仮に2万㌧の鉄スクラップを積んでシップバックとなった場合、金銭的にも大きな損害となる。そうしたリスク回避のためにも、品質をより向上していかねばならない。鉄スクラップに含まれるダストは1％以下という数値が一つの基準になってくるだろう。もし国内のある1社が海外向けに輸出した鉄スクラップの品質が悪かったとしても、相手国からは〝日本産鉄スクラップの品質が悪い〟と受け取られてしまう。品質問題は日本全体で取り組んでいく課題だと認識している」

（松井　健人）

会社名	㈱タニヒラ
設立	昭和54年（1979年）6月1日
代表取締役	谷平竜幸
資本金	99,000,000円
取扱量	約 5,000t/月
本社工場	
〒272-0103　千葉県市川市本行徳2554-40	
電話	047-399-7667
FAX	047-398-1911
第二工場	
〒272-0103　千葉県市川市本行徳2554-70	
主な納入先（順不同）	㈱伊藤製鐵所、㈱城南製鋼所、合同製鐵㈱、千代田鋼鉄工業㈱、JFEスチール㈱

■沿革

1979年	東京都江戸川区船堀に有限会社谷平商店を設立 資本金＝600万円、代表取締役社長＝谷平惟一
89年	本社工場を千葉県市川市本行徳に移転
	ギロチンプレス（北町1000㌧）・50㌧台貫設置
90年	本社工場東京都産業廃棄物収集運搬業許可取得
96年	ギロチンプレスをリプレース（モリタ600㌧）
98年	廃棄物再生事業者登録取得
2003年	代表取締役社長に谷平竜幸就任
04年	千葉県産業廃棄物処分業許可取得
	千葉県産業廃棄物収集運搬業許可取得
05年	千葉県自動車リサイクル破砕業許可取得
06年	千葉市・船橋市・神奈川県・横浜市・川崎市・埼玉県・さいたま市で産業廃棄物収集運搬業許可取得
	商号を㈱タニヒラに移行、資本金＝1000万円
08年	隣接地に第二工場設立 ギロチンプレス（テヅカ1000㌧）
09年	柏市産業廃棄物収集運搬業許可取得 資本金＝9900万円
11年	栃木県産業廃棄物収集運搬業許可取得